

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

June						
S	M	T	W	T	F	S
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

June 2018 vol.50

おんがくじ

音楽寺

所在地：江南市村久野町

交通：名鉄犬山線「江南」駅 北約 3km

江南市北部に位置する村久野町では、古くから瓦片や土器が出土しており、古代には大きな寺院が存在していたのではないかと考えられていました。この村久野町に、藤の曼陀羅寺の末寺で、円空仏とあじさい祭りでも有名な音楽寺があります。音楽寺は、平成4年に老朽化した本堂の建替えが計画され、その際に江南市教育委員会により発掘調査が実施されていますが、この発掘調査の結果、金堂や塔等の建物の土台跡が見つかり、また、白鳳時代の瓦を始めとする遺物が出土し、やはりこの場所に古代寺院が存在していたことが明らかになりました。大乘院と呼ばれたこの古代寺院は、七堂伽藍、数多くの塔頭を持つ大寺院であったとされ、一説には、壬申の乱の功労者・村国男依むらくにのおよりに関わりがあるとされています。

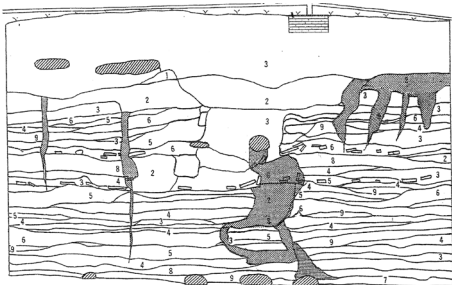
発掘調査では、現在の音楽寺の敷地内から塔跡が見つかっていますが（写真の門柱の右手あたり）、この塔跡の発掘に際し、その基壇に地震跡が確認されています。以下、音楽寺遺跡発掘調査報告書の記述です。「塔跡の基壇は、粘土を主とした23層が遺存していた。基底層は、砂混じりの礫層で、その上に築いているが、堅固な層であるため、スコップでは刃がたたず、鶴嘴で掘ったものである。以前に凡そ掘られていた盗掘杭を清掃発掘した結果、第11図（下図、抜粋）のような版築（土を強く突き固めて重ねる工法）と、地震跡が確認された。堅固な粘土の互層を裂いた強烈な地震によって、塔が倒壊したものと推定される。

倒壊の時期については、塔の完成後、金色に輝く風招ふうしょう（軒下に吊り下げる小型の鐘）の金箔が剥落しない前に、倒壊したのではないだろうか。瓦の堆積層の中に遺存した風招は、上になった面は緑青が浮き出し、下になった面は金箔が多く残るなど、遺存状況や瓦の状態から考えられよう。」

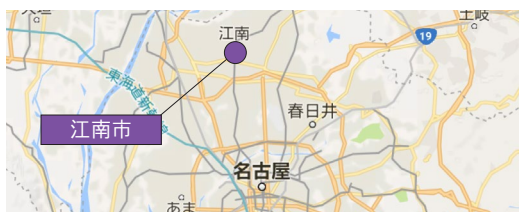
報告書では、塔跡の基壇部分に激しく裂かれた粘土の互層が発見され、これが地震によるもので、それが原因で塔が倒壊した、と推定しています。また、その時期についても、周辺の発掘調査結果から、塔が完成して間もないうち（風招の金箔が剥落しない前）である、と考察しています。

こうしたことを踏まえ、報告書のまとめでは「音楽寺は、白鳳時代中頃に建てられ、奈良時代、平安時代と変遷するが、七堂伽藍があったという伝承をその俦受け留めれば、奈良後期が推定され、寺は平安時代も早い時期に廃絶されたとみられる。塔の風招が金色に輝いている頃に地震によって倒壊し、それ以後は再建されなかったと推定される。」と述べられています。地震の特定はできませんが、寺が壊滅するほどの地震が白鳳時代から平安時代にかけての時期に起こっていた可能性があることを示しています。

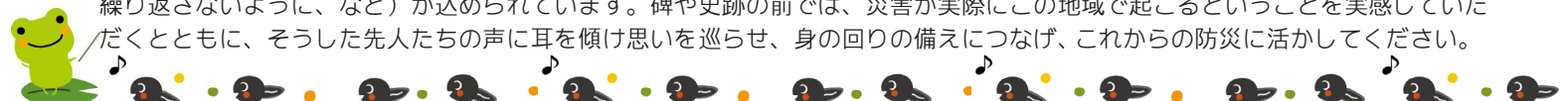
埋蔵文化財の発掘調査は、埋蔵文化財の存在が知られている土地などで土木工事などを行う際に、工事の埋蔵文化財への影響などを調べることを目的として行われますが、こうした調査からも過去の地震の記録を確認することができる場合があるのです。



確認された版築と地震跡（中央の色付き部分）の図（音楽寺遺跡発掘調査報告書より）



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆ 音楽寺の周辺には…

● 曼陀羅寺

所在地：江南市前飛保町

交通：名鉄犬山線「江南」駅北西約2.5km

曼陀羅寺は、明治24（1891）年濃尾地震により、境内にあった83棟の建物のうち、庫裏や塔頭など53棟が全倒し、本堂や曼陀羅堂など30棟が半倒る被害を受け、国から救助金を受けています。



平成28年から平成30年にかけて行われた正堂の保存修理工事において、屋根の頂上部分の箱棟の部材から、こうした被害や救済の記録が見つかりました。

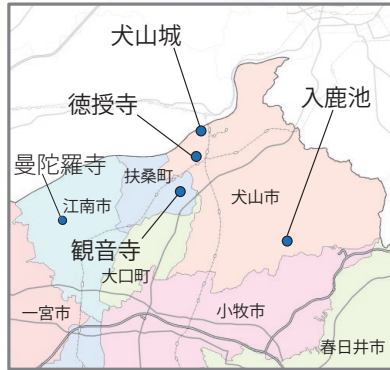


● 観音寺

所在地：扶桑町高雄中郷

交通：名鉄犬山線「木津用水」駅南約700m

観音寺は、明治24年濃尾地震の際に大被害を受けています。ただ、すぐに修復するまでには至らず、明治43年に庫裡、本堂が再建されています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ あじさい祭り

藤で有名な曼陀羅寺の藤まつりは5月ですが、それが終わると、次は音楽寺のあじさい祭りです。音楽寺には、境内に約33種類1,200株のあじさいがあり、見頃になる6月にはあじさい祭りが開催され、観光客でにぎわいます。（平成30年は6月2日から6月24日）



藤花ちゃん



Aichi Now HPより

あじさい祭りの期間中には、音楽寺の無料お茶会や幼児・小学生向けの写生大会や習字大会が催され、江南市マスコットキャラクター藤花ちゃんの来演もあります。その他、庭園には朝咲いて夜散る沙羅の木が5本あり、あじさいと同じ頃に見頃となります。

6月のあいちの花

平成30年6月のあいちの花はバラです。バラは花の女王とも言われ、バラだけで図鑑が刊行されるほどの人気の花です。父の日の花としても有名で、贈り物によく利用されます。野生のバラは100～150種程度ですが、現在では人口交配などにより30,000もの品種があります。



みんなの園芸HPより

花言葉もいろいろあり、色によって異なるだけでなく、本数や組み合わせ、花の状態によっても異なります。和名の薔薇は、トゲのある低木の総称「茨」が転訛したものとされています。

● ブレイクタイム ●

♪ 村国の郷（村久野区歴史資料館）

村国の郷（村久野区歴史資料館）は、音楽寺の前身・大乘院に関わりがあるとされる村国男依にちなんだ歴史資料館で、音楽寺の境内に建てられています。

村国の郷には、延宝4（1676）年頃に音楽寺に立ち寄った円空が寄進したとされる円空仏（薬師三尊像、12神将（現存は11体）、荒神像）が展示されており、あじさい祭りの期間中及び曼陀羅寺の藤まつりの期間中には自由に拝観できます。

（あじさい祭り期間中は午前9時から午後4時開館・拝観料300円、平常時は要予約）



12神将（江南市観光協会HPより）

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成30年6月）

